

総務産業常任委員会行政視察報告書

総務産業常任委員会の行政視察を実施した結果について、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 期 日 令和8年7月28日(火)～30日(木)
- 2 視 察 地 千葉県君津市、千葉県南房総市、千葉県鋸南町、千葉縣市原市
- 3 目 的
 - (1) 千葉県君津市
「君津市商工・観光アクションプランについて」
 - (2) 千葉県南房総市
「道の駅を拠点とした観光振興について」
 - (3) 千葉県鋸南町
「都市交流施設・道の駅 保田小学校について」
 - (4) 千葉縣市原市
「リノベーションまちづくりについて」
- 4 参 加 者 月 光 裕 晶 佐 藤 政 人 太 田 陽 子
伊 藤 正 彦 太 田 芳 彦 阿 部 清
荒 木 春 吉
小 野 誠 (さくらんぼ観光課)
熊 谷 拓 哉 (議会事務局)
- 5 視察概要 別紙のとおり

令和8年9月2日

総務産業常任委員会
委員長 月 光 裕 晶

寒河江市議会議長 柏 倉 信 一 殿

千葉県君津市の視察概要

1 市の概要

君津市は、千葉県の中南部から南部にかけて位置する市。都市雇用圏における東京都市圏。鹿野山は南房総国定公園に指定されている。財政力指数が高く、粗鋼生産量日本第2位の日本製鉄君津製鉄所を有する工業都市。令和8年6月現在の推計人口は78,657人、世帯数は39,618世帯。

2 財政の状況

- | | |
|-------------------|---------------------|
| (1) 令和8年度一般会計当初予算 | 35,110,000千円 |
| (2) 自主財源 | 21,481,427千円(61.3%) |
| (3) 依存財源 | 13,628,573千円(38.7%) |

3 君津市商工・観光アクションプランについて

(1) 主な取組

- ①企業立地促進事業
- ②産業支援センター運営事業
- ③地元で働く魅力発信事業
- ④君津版ハローワーク管理運営事業
- ⑤きみつの名産応援事業

(2) 観光業の課題

①広域的な課題整理

- ア インバウンドへの対応
- イ 観光産業における体質強化
- ウ 観光資源としての「まち」の活力と担い手

②地域的な課題整理

- ア 滞在時間、観光消費額の改善
- イ 着実な民間投資と域内、広域での連携促進
- ウ 君津市の観光イメージの確立と認知度向上
- エ 多言語化やSNS等新たな情報発信手法への対応

(3) 個別の取組

①観光資源の磨き上げ

- ア 魅力の掘り起こし
 - ・観光資源の再評価、新たな魅力の掘り起こし
 - ・君津ならではの「食」の創出

- ・スポーツ、文化・芸術イベント等による交流人口の拡大
- ・郡ダムの水上スキーでの活用推進
- ・ミツバツツジの活用推進
- イ 体験型コンテンツの拡充
 - ・グリーンツーリズムの推進
 - ・エコツーリズムの推進
 - ・観光モデルコースの整備
- ウ おもてなし体制の整備、強化
 - ・観光地域づくり法人（DMO）の設立検討
 - ・公共交通の利用促進
- エ DX（デジタルトランスフォーメーション）への対応
 - ・市場調査支援ツールの導入の検討
 - ・最先端ICT技術の活用検討
- オ 広域連携の推進
 - ・房総里山プロジェクトの推進
 - ・アクアラインイースト地域での連携の推進

②観光情報発信の強化

- ア デジタル情報発信強化
 - ・新たな情報発信手段の検討、導入
 - ・ホームページ等発信情報のバージョンアップ
 - ・インバウンド向け情報発信手法の調査・研究
- イ 紙媒体情報発信の工夫、刷新
 - ・訴求力ある観光パンフレットの検討、作成
- ウ 効果的なイベント
 - ・SNSによる情報拡散を狙ったイベントの実施
- エ イメージアップ戦略
 - ・積極的なロケ支援
 - ・観光イメージの確立

4 所感

寒河江市においても様々な計画が策定されているが、今後は事業の進捗や成果をより分かりやすく管理できる仕組みを取り入れることで、計画の実効性をさらに高めることができると感じた。また、観光や産業振興は行政だけで完結するものではなく、関係団体や事業者との連携が不可欠であることを改めて認識した。今回学んだアクションプランの考え方は、寒河江市の今後の各種計画にも活かすことができる有意義な内容であった。

千葉県南房総市の視察概要

1 市の概要

南房総市は、千葉県南部に位置する市。南房総観光圏の観光都市。市域は森林セラピー基地、海岸部は南房総国定公園に指定されている。2006年、7町村の合併により発足。令和8年7月1日現在の推計人口は32,937人、世帯数は16,706世帯。

2 財政の状況

- (1) 令和8年度一般会計当初予算 28,154,000千円
- (2) 自主財源 8,268,954千円（29.4%）
- (3) 依存財源 19,885,046千円（70.6%）

3 道の駅を拠点とした観光振興について

(1) 南房総地域の道の駅について

市内8つの道の駅があり全国で最多。平成18年の平成の大合併により近隣6町1村が合併し南房総市に。6町1村それぞれに道の駅があったこともあり数が多くなっている。

道の駅	登録年月日	指定管理者
富楽里とみやま	平成14(2002)年8月13日	(株)ちば南房総
とみうら枇杷倶楽部	平成5(1993)年4月22日	(株)ちば南房総
おおつの里花倶楽部	平成15(2003)年8月8日	—
「三芳村」鄙の里	平成5(1993)年8月10日	(株)ちば南房総
白浜野島崎	平成17(2005)年8月10日	(株)サウダージ
ちくら・潮風王国	平成14(2002)年8月13日	(株)ちば南房総
ローズマリー公園	平成10(1998)年4月17日	(株)ちば南房総 (株)菜花の里
和田浦WA・O!	平成24(2012)年9月14日	(株)ちば南房総

※おおつの里花倶楽部は(株)ちば南房総の直営施設であるため指定管理ではないが、道の駅の指定を受けるため市で駐車場やトイレを設置。

(2) 産業振興について

令和6年度、市で総合加工施設を建設、令和7年度から本格稼働。もともとびわの加工を行っていたが、それ以外のものの加工を1か所で行えるように総合加工施設を建設。指定管理者は(株)ちば南房総。現在、びわ・牛乳・菓子の加工ラインを有しており、オリジナル商品の製造、新商品の開発を進めている。

(3) 地域資源“びわ”を活かしたオリジナル商品開発

出荷規格外となる約3割について、以前は活用するすべがなく処分(廃棄)されていたが、

当時の富浦町の枇杷倶楽部にて買い取り商品化。また、びわの葉も活用。

(4) 一括受発注システムの構築による日帰りツアー

「エコミューゼ（分散配置施設の統合運営理論）」の手法による、地域を丸ごと活用した観光客誘致を行った。世界遺産や特急の観光資源がない富浦町（現南房総市）は、近隣の市町村も含めた小さな観光、農業体験（びわ狩り、いちご狩り、花摘み等）や歴史、景観と食事を組み合わせパッケージ化し、一括で観光会社に販売、観光日帰りバスを誘致。

メリット

観光会社	枇杷倶楽部から地域情報が一括で得られる。 連絡が枇杷倶楽部だけで済む。 枇杷倶楽部で精算が一括処理できる。
生産者	「観光 PR」「営業」を枇杷倶楽部がしてくれる。 受入体制さえ整えば、すぐにでも枇杷倶楽部からお客様を入れることが可能。 事務処理（請求書作成等）を枇杷倶楽部がしてくれる。 大口の団体バスを受け入れ、効率のいい観光客が得られる。
枇杷倶楽部	精算を一括処理するため、枇杷倶楽部に立ち寄る。トイレ休憩と買い物。

4 所感

寒河江市においてもチェリーランドをはじめとした観光施設があるが、今後は観光客だけではなく市民が日常的に利用したくなる施設づくりという視点も必要ではないかと感じた。地域の交流や情報発信、防災など、多様な機能を持たせることで、施設の価値をさらに高めることができると思う。今回の視察は、道の駅の可能性を改めて認識する大変有意義な機会となった。

千葉県鋸南町の視察概要

1 市の概要

鋸南町は、千葉県の南部に位置し、安房郡に属する町。南房総観光圏の観光都市。海岸部は南房総国定公園に指定されている。日本三大水仙群生地。令和8年7月1日現在の推計人口は6,411人、世帯数は3,411世帯。

2 財政の状況

- | | |
|-------------------|--------------------|
| (1) 令和8年度一般会計当初予算 | 5,037,267千円 |
| (2) 自主財源 | 1,392,446千円(27.6%) |
| (3) 依存財源 | 3,644,821千円(72.4%) |

3 都市交流施設・道の駅 保田小学校について

(1) 概要

(株)共立ソリューションズが指定管理者としてPPP（公民連携）の形態で管理運営を行っている。都内から約1時間半の便利な立地であり、すぐ近くにICがある。

鋸南町は平成の大合併の際、自立を選択したが、高齢化率は50%、後期高齢者率は20%を超え深刻な後継者不足と相次ぐ小学校の閉校。地域活力が減退していった。その中で「地域を元気にする事業をつくる」「町に人と仕事を呼び込む。町民のステージ。」「廃校を活用し、新たな人々の交流する場所をつくる」ため、都市交流施設・道の駅 保田小学校プロジェクトが始動。

(2) 事業の本格始動から開業までの主な流れ

事業開始から開業まで約4年間。閉校から約1年9ヶ月で開業。農山漁村活性化プロジェクト支援交付金を活用。

- ・平成24年度 基本調査 ・平成25年度 実施計画
- ・平成26年度 実施設計・着工 ・平成27年度 開業準備

(3) 設計者の選定

町民に見える形で、設計者の公開プロポーザルを実施。全国から37の応募があり、6者を2次選考で公開審査。N.A.S.A.設計共同体（5大学連携、4事務所）を選定。

- ・体育館を大きな市場に ・教室を宿泊室に ・周辺環境と調和
- ・初期投資の節約、校舎を再利用 ・5つの大学の学生が参加
(早稲田大学・法政大学・工学院大学・日本女子大学・横浜国立大学)。

(4) 整備費用

●主な施設整備の内訳

業務名	受注者名	金 額
整備設計業務	N. A. S. A. 設計共同体	45,360,000 円
増改築工事	東海建設(株)鋸南支店	845,640,000 円
屋外整備工事	東海建設(株)鋸南支店	121,942,800 円
増改築工事監理業務	N. A. S. A. 設計共同体	28,080,000 円
太陽光発電システム設置工事	(有)富永電気	44,820,000 円
その他関連整備費用 (ハード)		45,688,327 円
その他関連整備費用 (ソフト)		82,925,676 円
計		1,214,456,803 円

●主な施設整備の内訳

財 源	金額
(国庫補助) 農山漁村活性化プロジェクト支援交付金	333,556,000 円
(国庫補助) 地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金	7,200,000 円
(国庫補助) 次世代自動車充電インフラ整備促進事業費補助金	4,620,000 円
(千葉県補助) 千葉県緊急雇用創出事業補助金	14,200,000 円
(千葉県補助) 千葉県公共施設再生可能エネルギー等導入支援補助金	37,740,000 円
(千葉県補助) 公共無線 LAN 環境整備事業補助金	5,000,000 円
(町債) 過疎対策事業債	531,400,000 円
町一般財源	280,740,803 円
計	1,214,456,803 円

(5) 保田小学校に登校させる秘訣

・他店舗との差別化

⇒「学校を完全特化」キーワードに毎日開校し登校

開校前：8:45～ 朝のラジオ体操

開校：チャイム&校歌斉唱&校旗掲揚

毎時：チャイム時々校歌

お昼：給食メニュー提供

土産：保田小オリジナル商品

下校：チャイム&校歌斉唱&校旗校納

・学校モチーフもお土産で他店と差別化

(全体売り上げの約15～20%を占める)

・ノスタルジーを体感し、自宅に帰り、お土産話で盛り上がる。

⇒リピーターへ⇒真の保田小ファンへ

・プレスリリースを頻繁に (SNSにて頻繁に最新の情報発信を)

- ・テレビ他マスメディア放映多数実績＝無料の宣伝広告
- ・今やTVなどのネタ探しはSNSにて（経費削減？昔のようなロケハンなし）

（６）都市交流施設の課題

- ・休日には、慢性的に駐車場が不足している。
- ・団体客の受け入れが可能な飲食スペースが不足している。
- ・地元住民の利用は少なく、施設内のテナントなどの認知度が低い。
- ・町全体への波及効果が限定的となっている。
- ・隣接する旧鋸南幼稚園を公園などに活用できないかという意見あり。
- ・高速バスの乗り入れにあたって、快適な利用環境が整備されていない。
- ・新しい働き方や暮らし方に対応した施設整備が求められている・
- ・「みんなの家庭科室」の活用を通じた特産品のブランド化、６次産業化の推進が求められている。

4 所感

寒河江市においても、施設の老朽化や公共施設の再編が課題となる中、既存施設をどのように地域活性化へ結び付けるかという視点は今後ますます重要になると感じた。規模や手法は異なっても、地域の特色を生かした施設活用について検討する必要性を改めて認識した。

千葉県市原市の視察概要

1 市の概要

市原市は、千葉県の中南部から南部にかけて位置する市。都市雇用圏における東京都市圏。鹿野山は南房総国定公園に指定されている。財政力指数が高く、粗鋼生産量日本第2位の日本製鉄君津製鉄所を有する工業都市。令和8年6月現在の推計人口は78,657人、世帯数は39,618世帯。

2 財政の状況

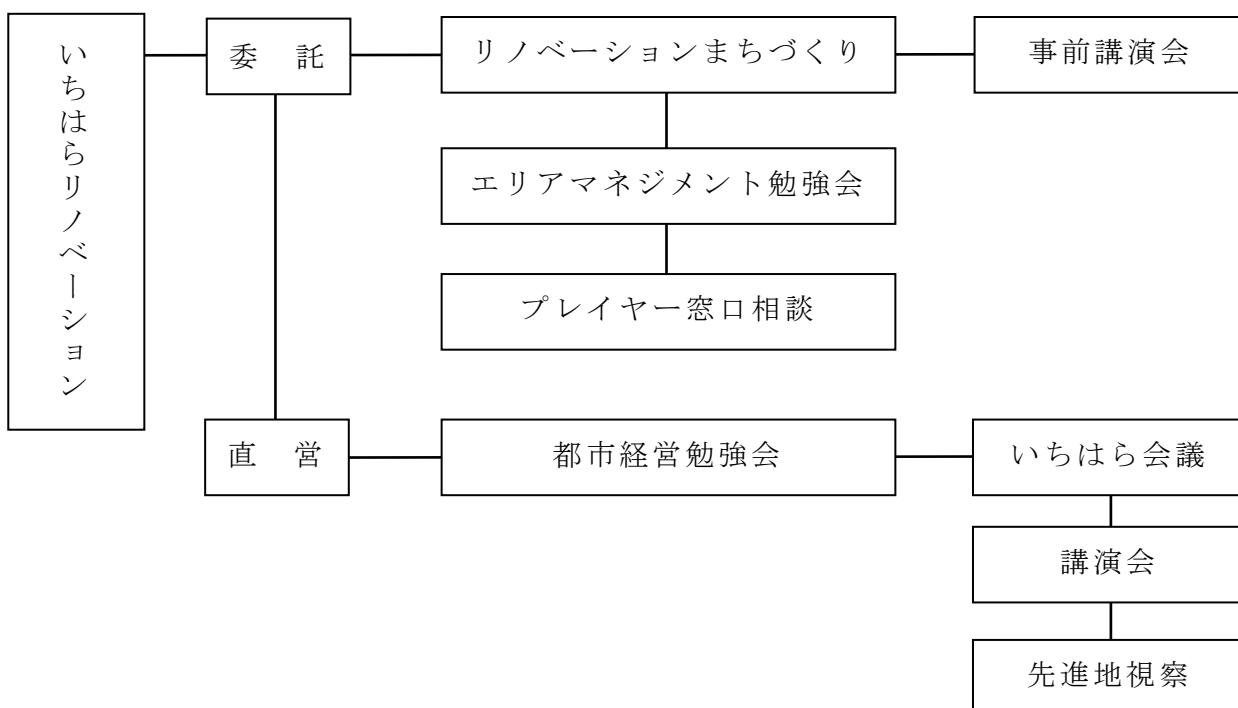
- (1) 令和8年度一般会計当初予算 127,200,000千円
- (2) 自主財源 71,400,475千円(56.1%)
- (3) 依存財源 55,799,525千円(43.9%)

3 リノベーションまちづくりについて

(1) リノベーションまちづくり

現状地域にある既存の遊休不動産（空き家・空き店舗）を活用する、また不動産だけでなく、地域の人や歴史といった、その地域が持つものを資源と捉え活用することで、地域の活性化を図る取組。

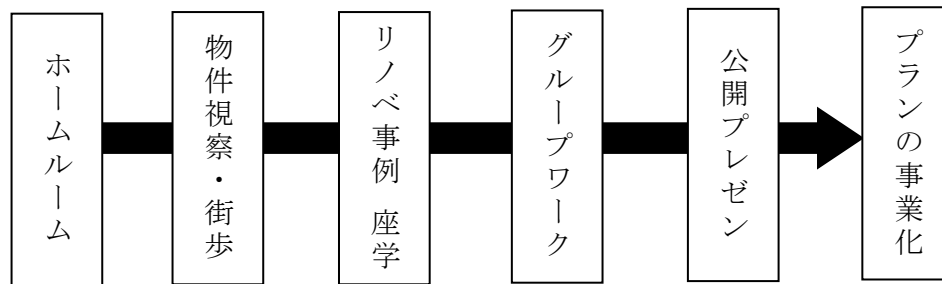
令和2年から市、商工会議所、町会長連合会の長で組織した実行委員会でこの取り組みを進めてきている。直近の組織図として下記のとおり



(2) リノベーションまちづくり塾

空き物件・遊休不動産を題材に、チームで事業プランを考え、実事業化を目指す

す短期集中・実施型プログラム。



生まれた取組

- ・五井朝市 ・ Share Kitchen SOMARU ・ 佐川ビル ・ 姉崎のまちづくり団体
- ・ Anesaki Garden Market ・ コミュニティガーデン

(3) 事前講演会

- ・ 受講生とオーナーの理解を深める
- ・ 令和8年度 オーナー向け講演会

(4) エリアマネジメント勉強会

エリアマネジメントとは、特定エリアにおける地域課題の解決や地域価値の維持・向上を目的として、居住者・事業者・地権者等の多様な主体の活動も含め、官民一体で進めていく取組。

令和7年度、八幡で旗揚げした都市再生推進法人の一般社団法人むすびあいとは、市と地域の間に入って調整ごとを行うエリアマネジメント団体。

先行して八幡で進んでいるエリアマネジメントの取組みが、五井や姉崎、市内全体に効果波及するよう、エリアマネジメント勉強会を開催。

(5) エリアマネジメント勉強会

- ・ プレイヤーと職員の学びの場 ・ 先進都市視察
- ・ 講演会（アフター5セミナー等） ・ いちはら会議

(6) 伴走支援

- ・ プロモーション支援

4 所感

寒河江市においても、地域資源を活用した小規模な取り組みや、若い世代がチャレンジしやすい環境づくりを進めることで、新たな地域活性化につながる可能性があると感じた。人口規模の違いを踏まえながらも、本市に合った形で取り入れるべき視点が多く、大変有意義な視察となった。